



横尾 美香さん
佐賀県佐賀市
四季彩ホテル千代田館

福岡の小林佳子さんからバトンを受け取りました、佐賀県・四季彩ホテル千代田館の横尾美香です。佐賀を代表する祭り「唐津くんち」をご紹介しますと思います。

例大祭です。使用されるヤマは和紙に漆を塗り重ねた「漆の一閑張り」という伝統工芸技法で制作されており、漆ならではの重厚な色彩に金箔が施され、高さは7尺、重さは2斗以上もあります。

彫師が仲間とともに「赤獅子」を作ったのが津神社に奉納したのが最初と言われ、各町で次々と独自の曳山が作られました。今では赤、青、金獅子や武将の兜、鯛、鯨など14台が現存しています。

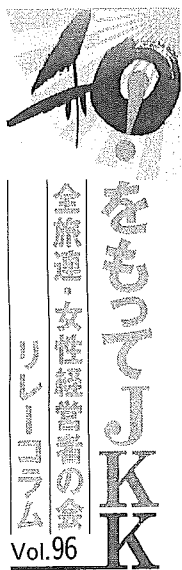
3日間のくんちの中で初日の宵曳山は夜7時半から始まります。提灯で飾られた一番曳山が市中心部の大手口を出発し各町内からヤマがその巡行に1台ずつ加わります。幻想的に浮かび上がるヤマと、笛、鐘、太鼓で奏でる曳山囃子に法被姿の「エンヤ、エンヤ」「ヨイサ、ヨイサ」の掛け声が夜の町に響き、祭りのボルテージが徐々に上がっていきます。

2日目の御旅所神幸(おたびしよしんこう)は唐津神社神前での獅子舞い奉納後、神輿を中心にヤマが前後に従い旧城下町を巡行する姿は美しく凜とした気高さが感じられます。しかし、ヤマの巡行が一変するのが、お旅所(神様が年に一度、氏子町内に出かけて行ってお休みになる場所)の砂地にヤマが曳き込まれる場面です。一瞬間喧嘩祭りかと思っほどの勢いでヤマが砂地に突き進み、勇

往邁進する引手の熱気と砂ぼこりが嵐を作り上げるのです。砂塵が残る中、14台のヤマが横一列に並ぶ姿はまさに圧巻です。3日目は神輿が出ない町廻りで、ヤマは曳山展示場に収められます。

佐賀の11月は熱気球大会も開催され、広い秋空が華やかに彩られます。ぜひ足を運んでみてくださいね。

次は徳島の谷口真理さんです。よろしくお願いたします。



気高さと勇猛さ―秋の「唐津くんち」